

## 第2回安来市創生総合戦略推進会議

平成27年7月28日(火)午後2時～  
安来中央交流センター 音楽室

### 次 第

開会の挨拶

会議成立報告

### 議 事

(1) 安来市人口ビジョン(案)について

(2) 総合戦略の策定状況について

### 意見交換

人口減少への対策、地域の活性化について

その他

閉会の挨拶

次回開催予定日 8月21日(金)

未定稿

# 安来市 人口ビジョン (案)



平成27年10月  
安来市政策企画部定住企画課



## 目次

I. 安来市の人口動向.....	1
1. 人口の推移と構造.....	1
(1) 総人口の推移.....	1
(2) 全国、島根県との比較.....	2
(3) 年齢3区分別人口の推移.....	3
(4) 人口ピラミッド(30年前との比較).....	4
2. 人口動態.....	5
(1) 「自然増減」と「社会増減」.....	5
(2) 出生と死亡.....	6
(3) 転入と転出.....	7
(4) 純移動(地域別).....	8
(5) 純移動(年齢・地域別).....	10
(6) 移動の理由.....	11
3. 地区別の現状.....	12
(1) 地域別人口の推移.....	12
(2) 人口減少と高齢化.....	13
II. 安来市の将来人口推計.....	14
1. 将来人口の推移.....	14
(1) 将来人口.....	14
(2) 推計方法.....	15
2. 将来人口構成.....	16
(1) 年齢3区分別将来人口.....	16
(2) 将来の人口ピラミッド.....	17
III. 安来市の人口の現状と減少要因の整理.....	18
1. 人口動向と将来人口のまとめ.....	18
(1) 人口の推移と構造.....	18
(2) 人口動態.....	18
2. 減少要因の整理.....	19
(1) 人口減少の影響.....	19
(2) 減少要因の整理.....	19
IV. 人口減少要因の分析.....	20
1. 出生率に関する分析.....	20
(1) 合計特殊出生率の動向.....	20
(2) 出生率が低い要因.....	21

2. 10代後半～30代の転出超過に関する分析 .....	23
(1) 純移動の動向 .....	23
(2) 10代後半～20代前半の転出 .....	24
(3) 20代後半～30代の転出 .....	26
3. 人口減少抑制に向けて .....	28



## 安来市の人口動向

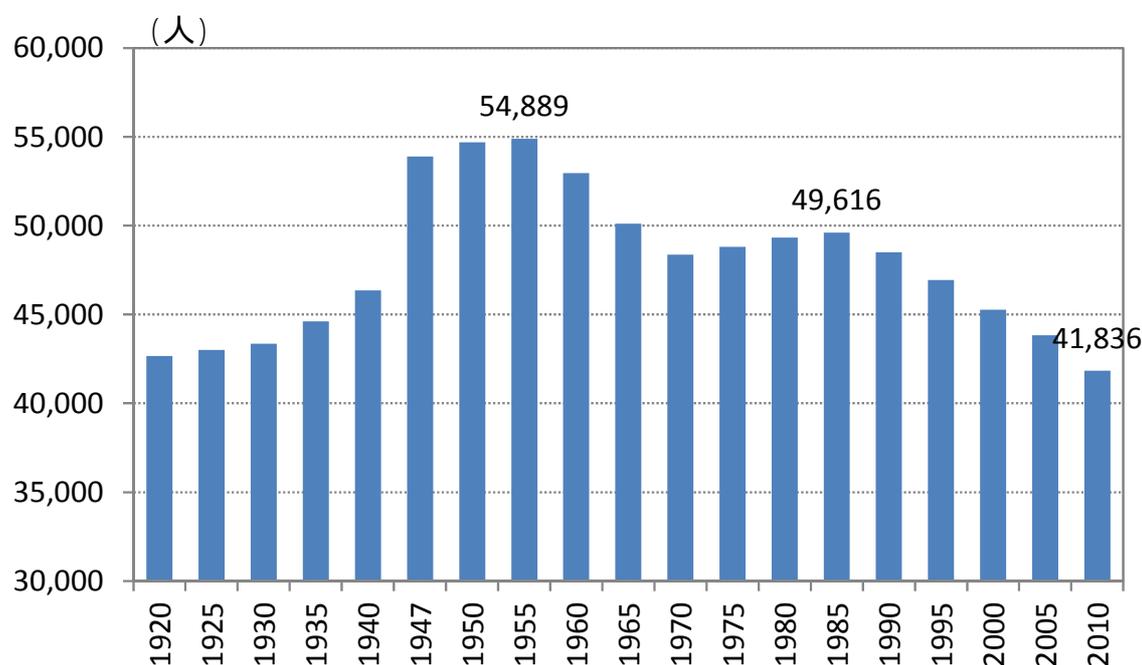
### 1. 人口の推移と構造

#### (1) 総人口の推移

安来市の人口は、戦後、5万5千人近くの水準で推移していました。その後、一旦減少しましたが、第2次ベビーブームとなる1970年代（昭和40年代）前半から緩やかに増加し、直近ピークとなる1985年（昭和60年）の人口は、49,616人となりました。

以降は、減少傾向が続いており、2010年（平成22年）には41,836人と、直近ピークの1985年と比較すると15%超の減少になっています。今後もこの減少傾向は、続くものと考えられます。

図表 -1 安来市の総人口の推移



(資料) 総務省統計局「国勢調査」



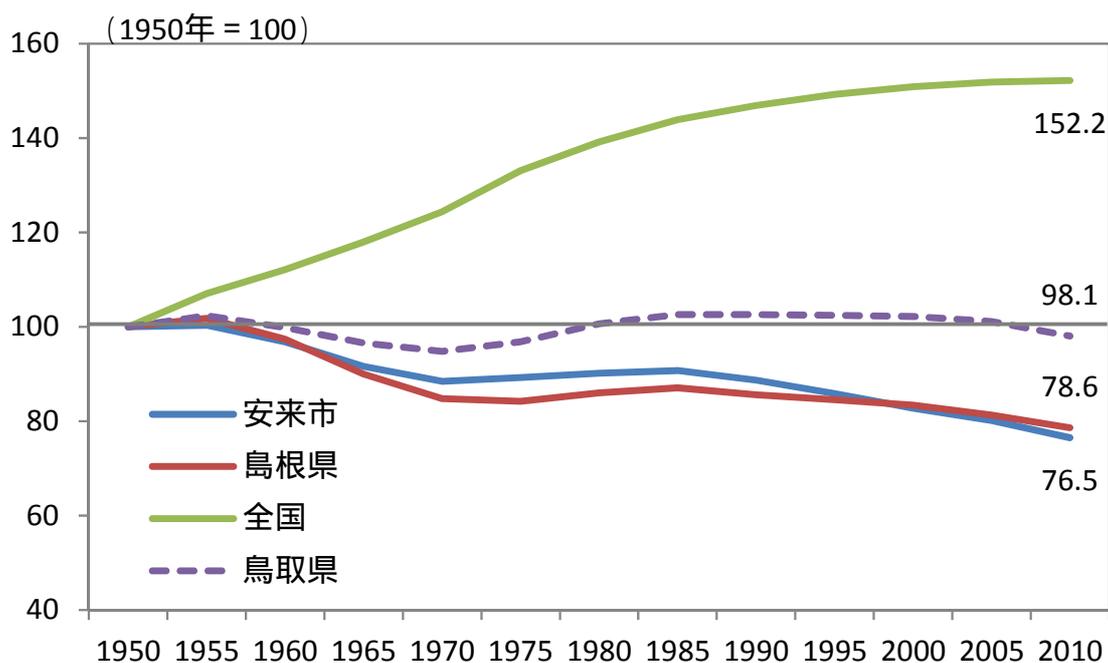
## (2) 全国、島根県との比較

安来市の人口の推移を全国、島根県と比較してみると、島根県とは、ほぼ同様な推移を辿っています。2010年（平成22年）には1950年（昭和25年）対比で7割台の水準にまで減少しています。

一方、全国の推移と比較すると、全国は増加を続けていたことから、グラフの形状に大きな差がみられます。首都圏を中心とした都市部に地方からの人口が流入しながら、人口を増加させてきた姿がうかがえます。

なお、安来市、島根県の人口の推移を隣県の鳥取県と比較するとやや様相が異なり、上方にシフトした形となっています。鳥取県は1960年代の人口流出が島根県と比べると少なかったことが主因だと考えられます。

図表 -2 人口の推移の比較



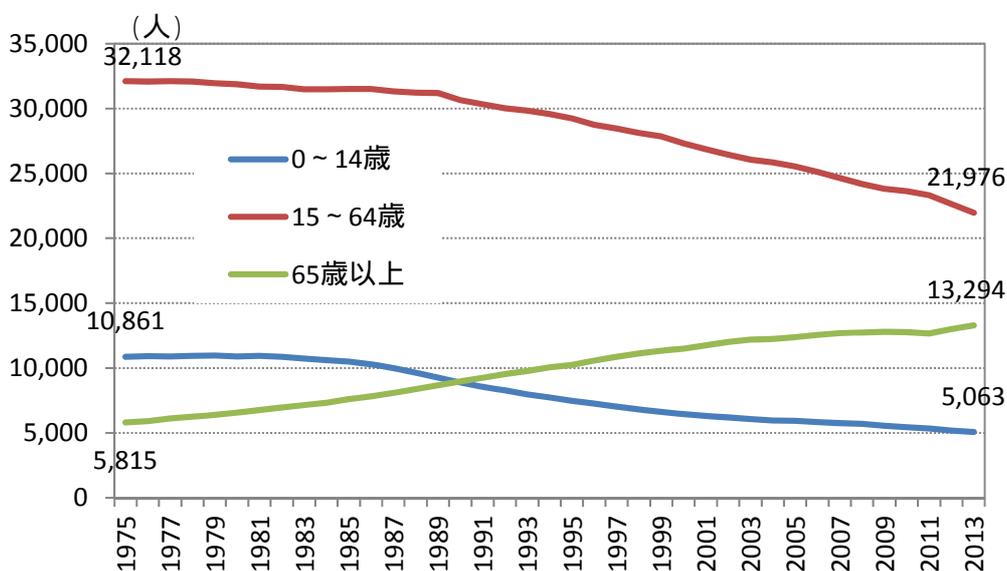
(資料) 総務省統計局「国勢調査」



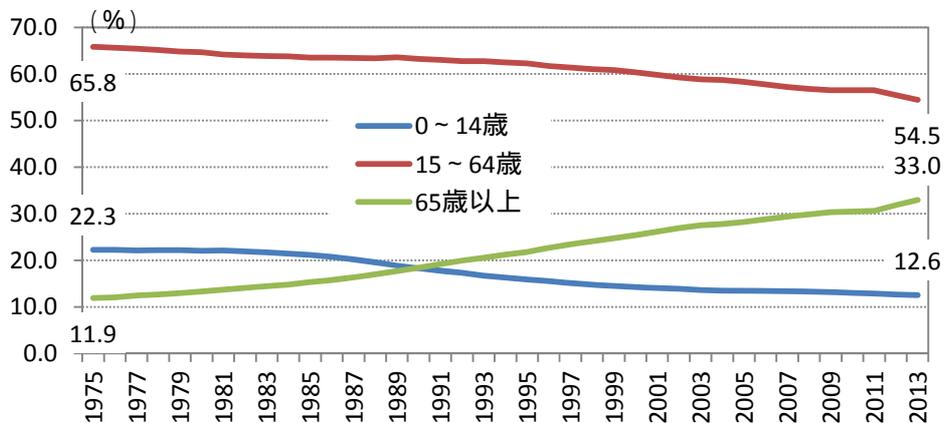
### (3) 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別の人口推移をみると、老年人口（65歳以上）が増加する一方で、年少人口（0～14歳）および生産年齢人口（15～64歳）は減少が続いています。このため、人口に占める老年人口の比率は上昇が続いており、1970年代は10%台であったものが、足元では30%を超えています。

図表 -3 安来市の年齢3区分別人口の推移



図表 -4 安来市の年齢3区分別人口構成比の推移



(資料) いずれも総務省統計局「国勢調査」、島根県「推計人口」

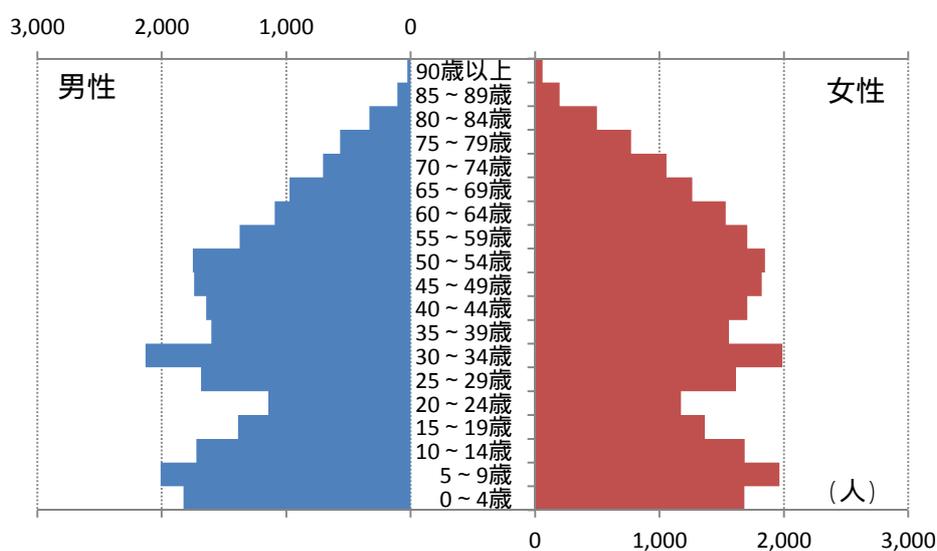


(4) 人口ピラミッド(30年前との比較)

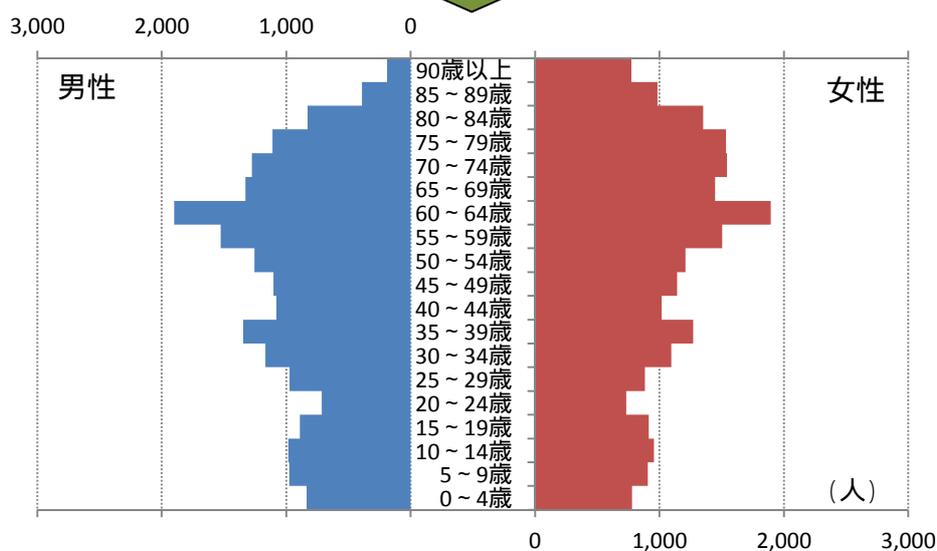
2010年(平成22年)の人口ピラミッドは、1980年(昭和55年)と比べ、年齢の高い層が厚く、低い層が薄い「つぼ型」になっており、少子高齢化が進展している様子がうかがえます。

図表 -5 安来市の人口ピラミッド

1980年



2010年



(資料) 総務省統計局「国勢調査」



## 2. 人口動態

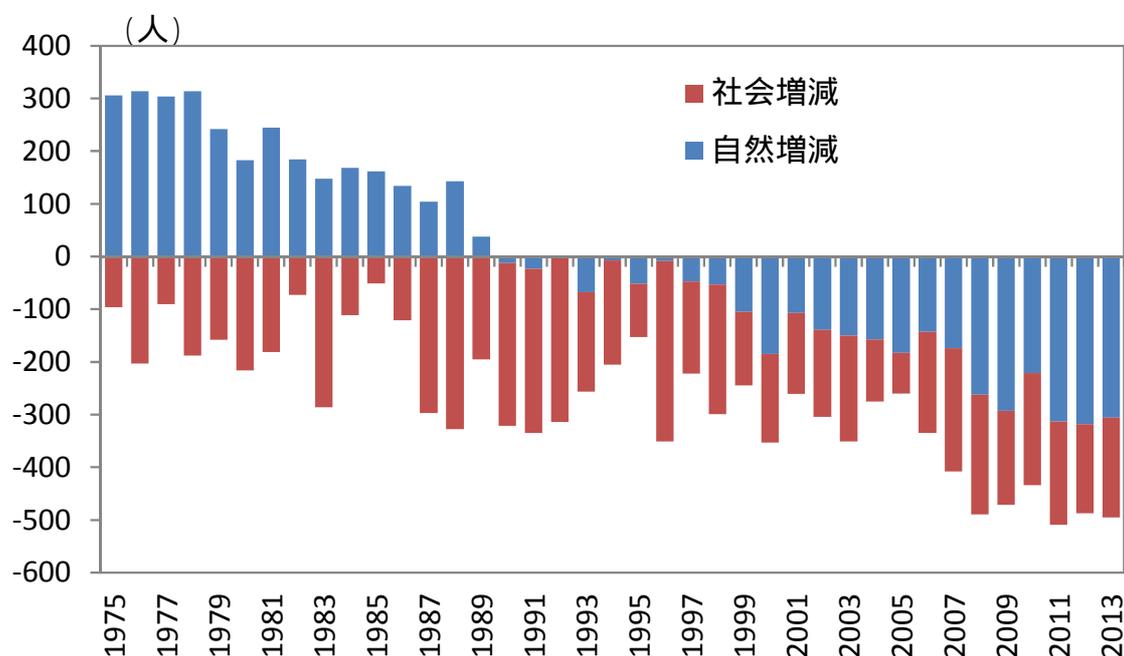
### (1) 「自然増減」と「社会増減」

人口を変動させるのは、「出生」、「死亡」、「移動（転入と転出）」の三つの要素からなります。

安来市の人口増減の要因を「自然増減（出生－死亡）」、「社会増減（転入－転出）」別にみると、人口が増加傾向にあった1980年代中盤までは、「社会増減」のマイナスを「自然増減」のプラスで補う形で推移していましたが、足元ではいずれもマイナスに寄与しています。

「自然増減」は80年代後半にかけてプラス幅を縮小させていき、90年代以降は徐々にマイナス幅が拡大しています。一方、「社会増減」は、年によって多寡はあるものの、一貫してマイナスが続いています。

図表 -6 安来市の自然増減と社会増減の推移



(資料) 島根県「人口移動調査」

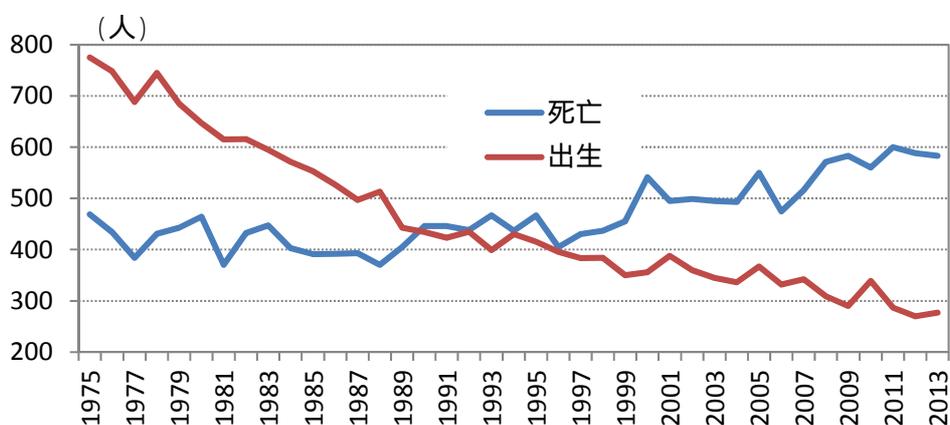


## (2) 出生と死亡

安来市の出生数の推移をみると、1970年代後半は年間700人前後あったものの、減少傾向が続き、近年では年間300人を切る水準にまで減少しています。一方、死亡数は、増加傾向が続いています。

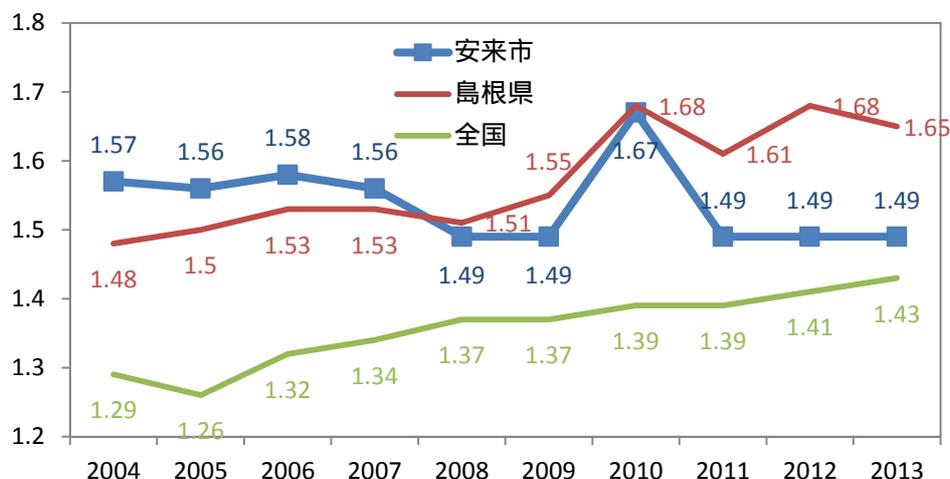
合計特殊出生率は、全国値を上回っているものの、人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）を大きく下回っており、出生数の減少に歯止めをかけることは難しい状況にあります。

図表 -7 安来市の出生数と死亡数の推移



(資料) 島根県「人口移動調査」

図表 -8 合計特殊出生率の推移



(資料) 島根県保健統計と保健所よりデータ提供

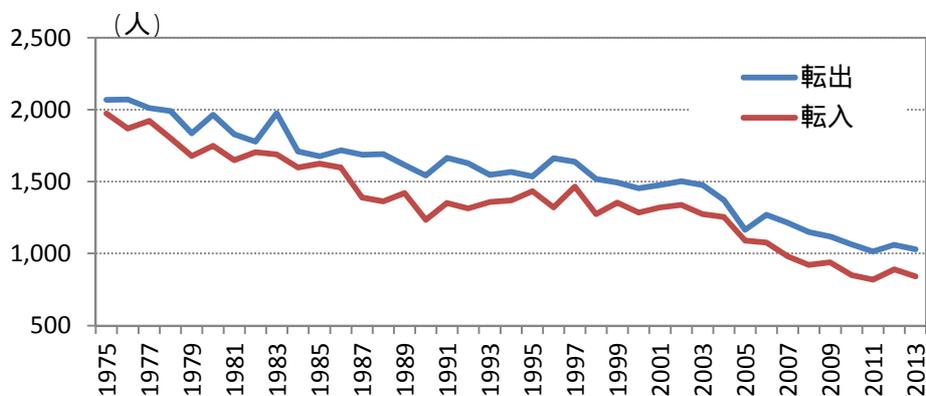


### (3) 転入と転出

安来市の転入数と転出数は、それぞれ年間 2,000 人前後で推移していたものの、次第に減少し、近年では年間 1,000 人前後となっています。転入と転出の差は、一貫して転出が転入を上回って推移しています。

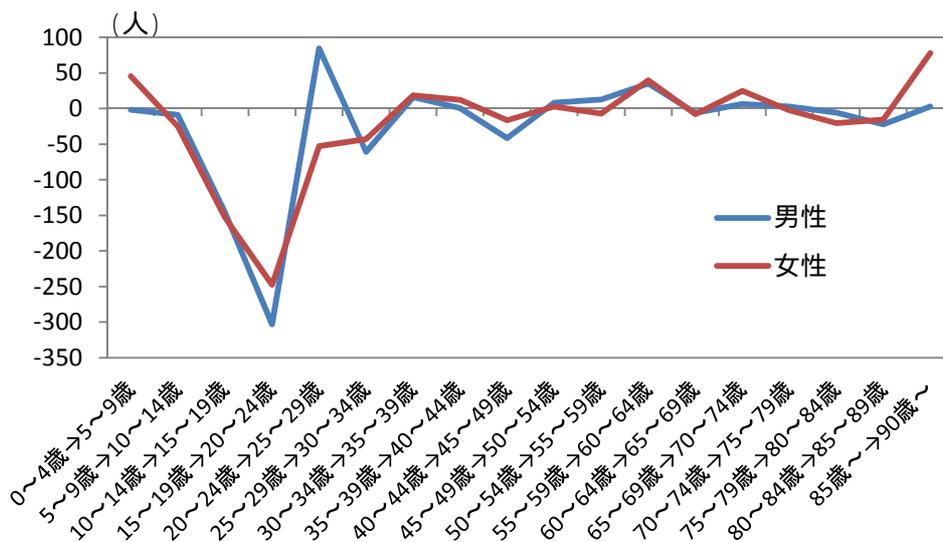
年齢階級別人口移動をみると、10 代後半から 20 代前半での人口流出が、男性、女性とも多くなっています。

図表 -9 安来市の転入数と転出数の推移



(資料) 島根県「人口移動調査」

図表 -10 安来市の 2005 年 2010 年の年齢階級別人口移動



(資料) 総務省統計局「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」

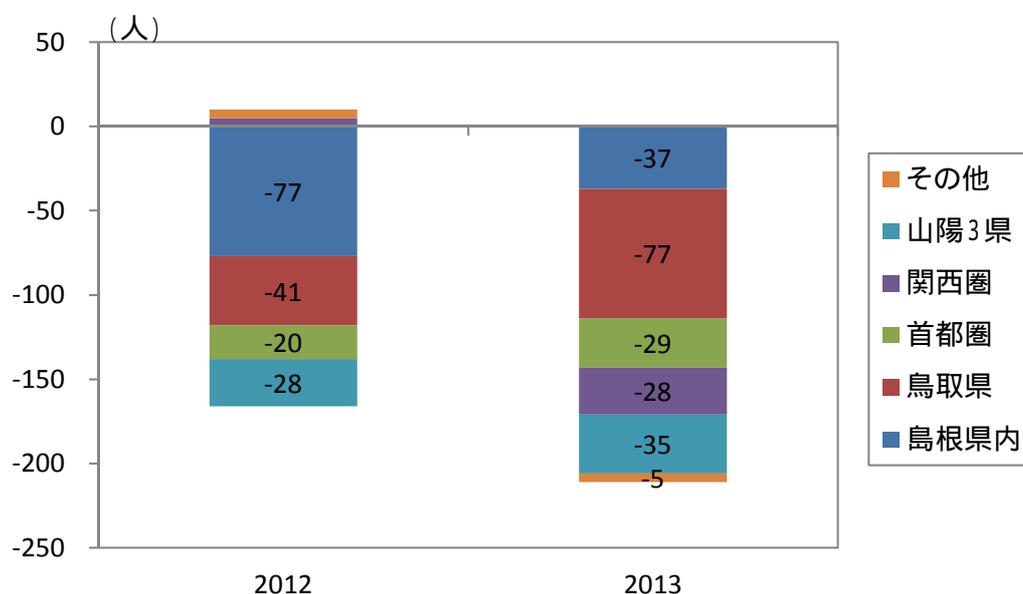


(4) 純移動(地域別)

転入からそれぞれ転出を控除し、地域ごとの純移動の状況を見ると、ほぼいずれの地域においてもマイナス(転出超過)となっていることがわかります。特に島根県内、鳥取県に対してのマイナスが目立ち、人口流出の過半数が山陰両県内に対してのものとなっています。

島根県内のマイナスのうち大部分は松江市に対して、鳥取県のマイナスのうち大部分は米子市に対してのものとなっています。

図表 -11 安来市の純移動(転入 - 転出)(地域別)



(資料) 総務省統計局「住民基本台帳移動報告」

図表 -12 安来市からの転出超過先(2012年、2013年累計、上位5市町)

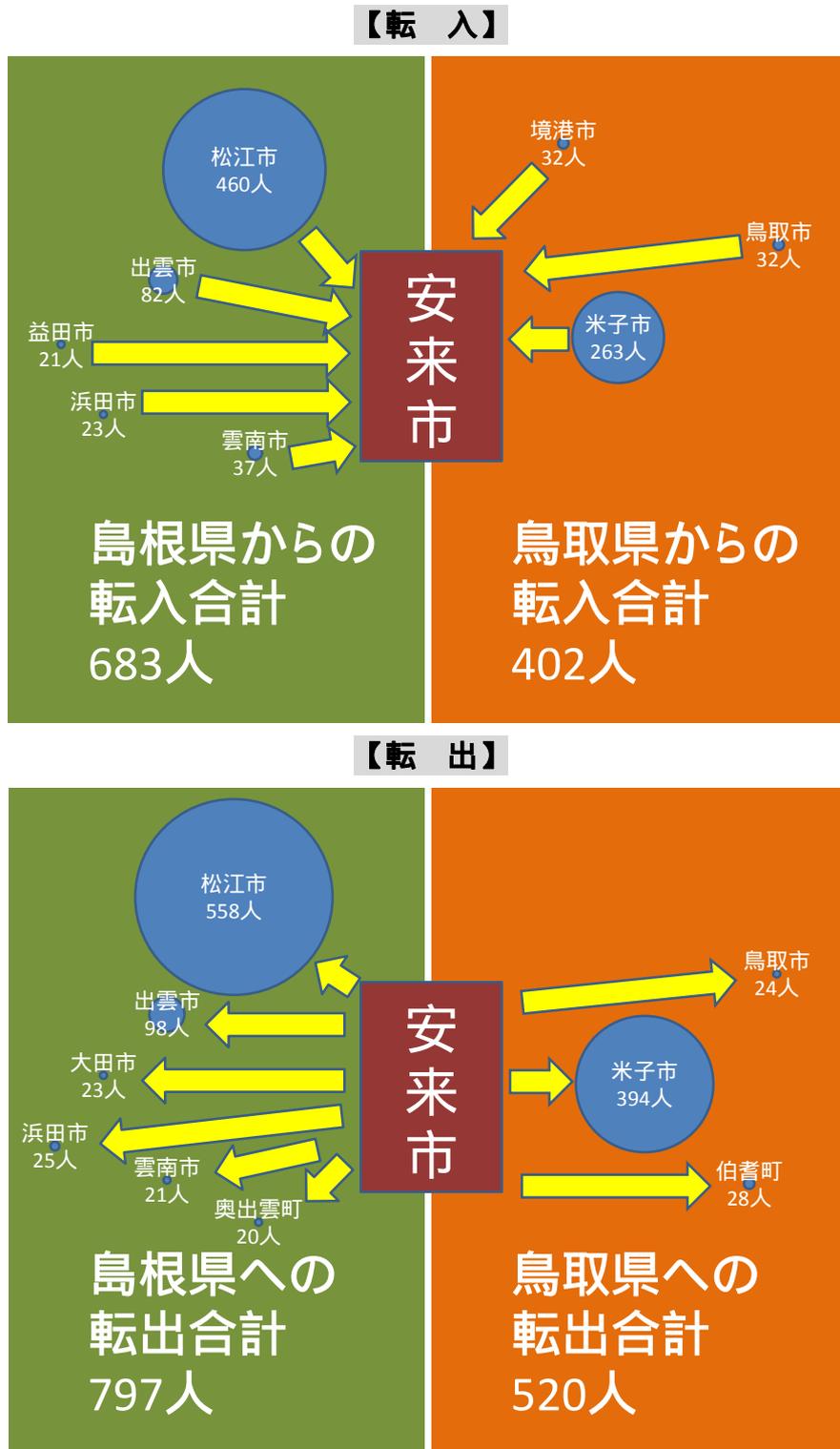
(単位:人)

順位	転出先	転出超過数
1	米子市	131
2	松江市	108
3	出雲市	16
4	大田市	13
5	伯耆町	12

(資料) 総務省統計局「住民基本台帳移動報告」



図表 -13 安来市と山陰両県内市町村間の移動（2012年、2013年累計）



（注）20人以上の移動を記載、円の大きさは移動人数を表す

（資料）総務省統計局「住民基本台帳移動報告」

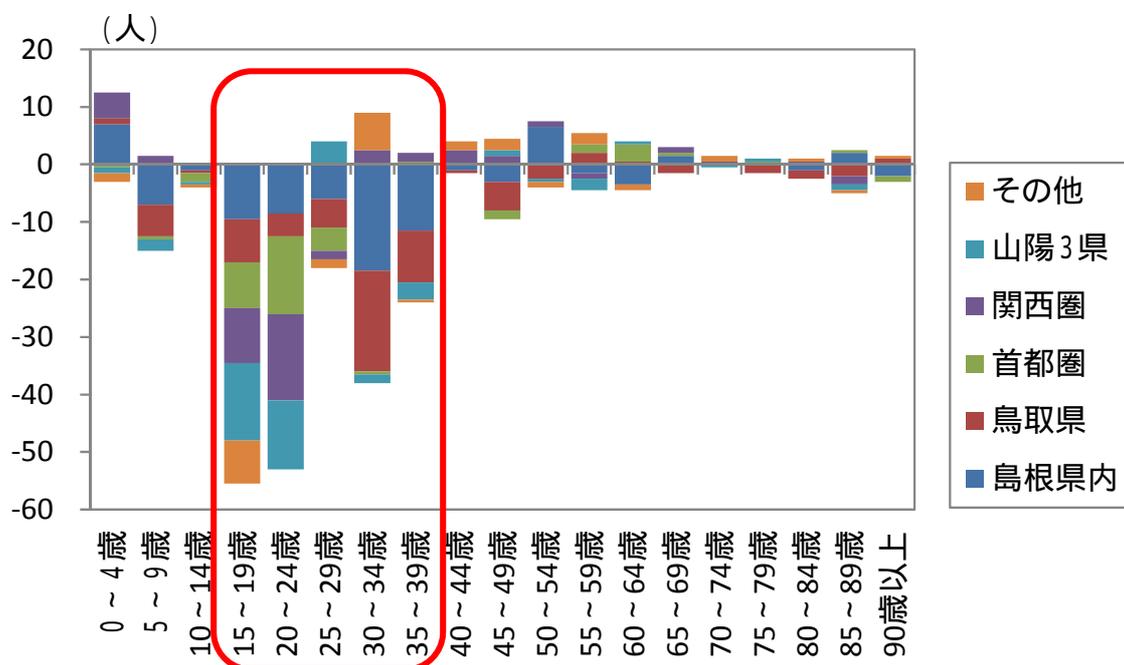


(5) 純移動(年齢・地域別)

前ページの地域別の純移動をさらに年齢階層別に分解すると、10代後半から30代の転出超過が目立っています。

そのうち10代後半から20代前半は首都圏、関西圏、山陽3県への流出が多くなっています。また、30代では島根県内および鳥取県への流出が多くなっています。

図表 -14 安来市の純移動(転入-転出)(年齢・地域別)



(注) 2012年および2013年の平均値

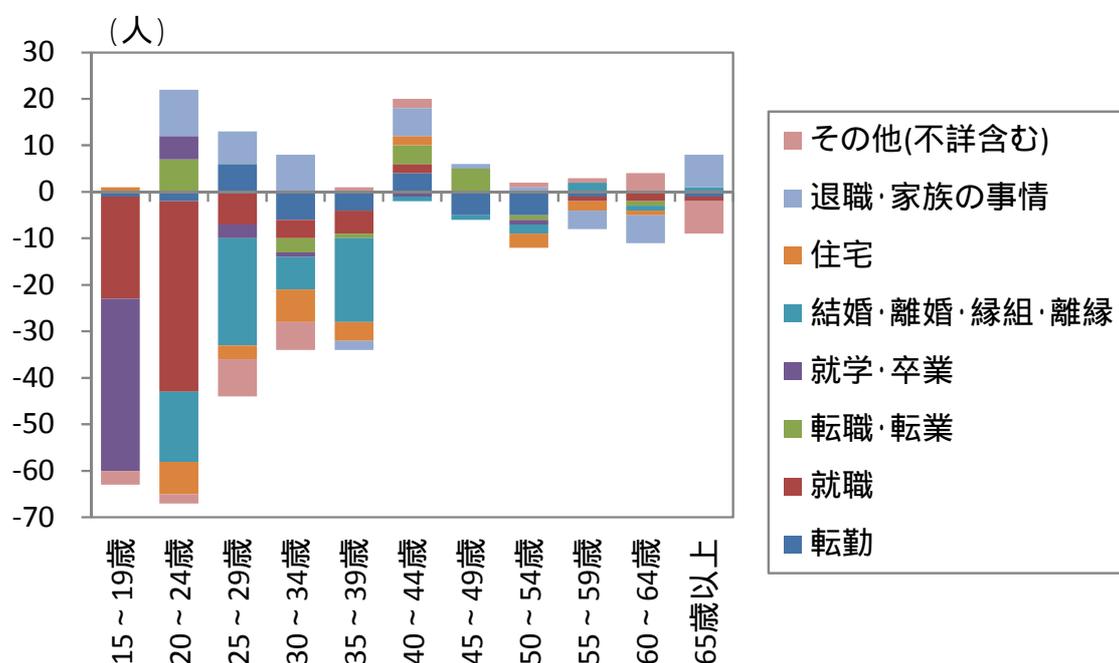
(資料) 総務省統計局「住民基本台帳移動報告」



## (6) 移動の理由

安来市の純移動を原因者（移動の原因となる人）の移動理由別にみると、10代後半から20代前半は、就学・卒業、就職に伴う、流出が多くなっています。また、20代後半から30代にかけては、結婚等による流出が多くなり、加えて、新居への引っ越しなどの「住宅」による流出も見られるようになります。

図表 -15 安来市の年齢階級・移動理由別純移動（転入 - 転出）（原因者）



(注) 2013年の数値

(資料) 島根県「人口移動調査」



### 3 . 地区別の現状

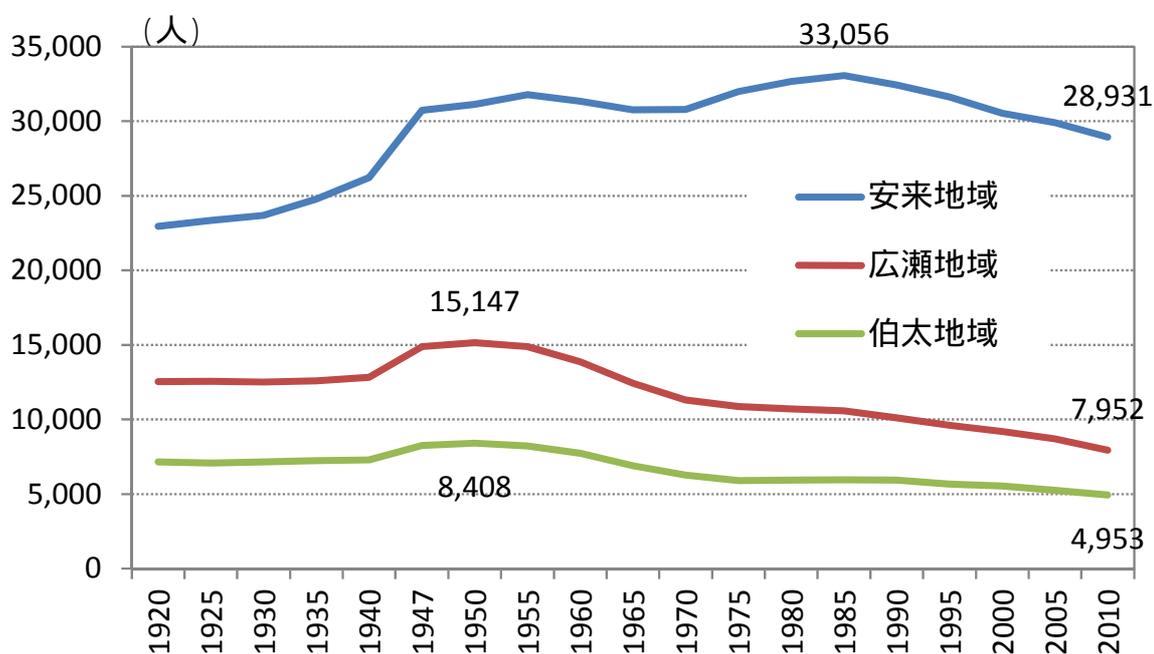
#### ( 1 ) 地域別人口の推移

安来市の人口を地域別（合併前市町別）にみると、安来地域が全体の 7 割を占め、広瀬地域が 2 割、伯太地域が 1 割の構成となっています。

安来地域は概ね 1985 年（昭和 60 年）までは増加傾向が続いていましたが、同年の 33,056 人をピークに減少に転じ、2010 年（平成 22 年）には 28,931 人となっています。1985 年と比較すると 12%超の減少です。

広瀬地域、伯太地域は 1950 年（昭和 25 年）の人口がピークとなっており、安来地域に比べ 35 年早くピークを迎えています。広瀬地域は 2010 年の人口が 7,952 人と 1950 年対比で約半減になっています。伯太地域は 2010 年の人口が 4,953 人と 1950 年対比で約 41%減少しています。

図表 -16 地域別（合併前市町別）人口の推移



(資料) 総務省統計局「国勢調査」

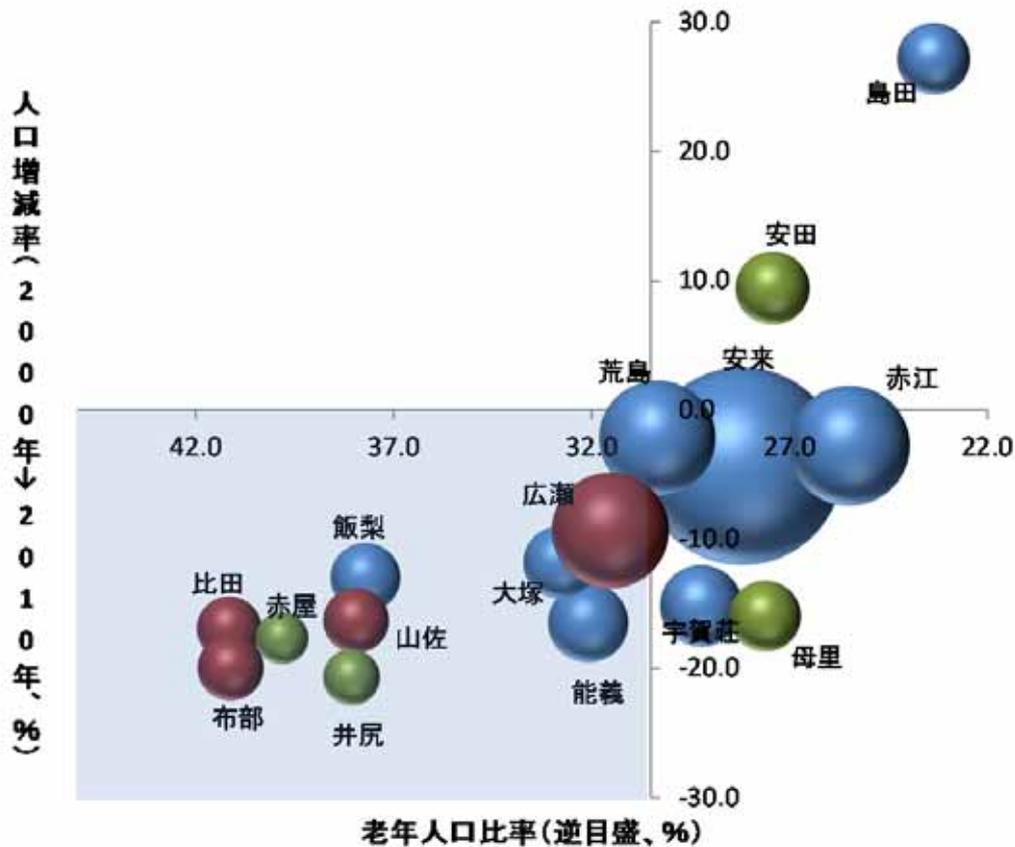


## (2) 人口減少と高齢化

2000年（平成12年）から2010年（平成22年）の人口増減率を地区別にみると、増加したのは島田地区（27.1%増）、安田地区（9.4%増）の2地区となっています。島田地区、安田地区は宅地開発および市営住宅の整備が人口増加に寄与したものと考えられます。

人口増減率に老年人口比率（2010年）を合わせてみると図表I-17のようになります（青は安来地域、赤は広瀬地域、緑は伯太地域を表しています）。グラフの左下にある地区は、人口が減少し、高齢化も進んでいる地区となります。ここに広瀬地域の4地区すべてが入るなど、中山間地域にある地区を中心に人口減少、高齢化が進んでいる様子が見えてきます。中心市街地周辺部と中山間地域とでは、人口減少、高齢化の進行状況には差があるといえます。

図表 -17 人口増減率と老年人口比率（地区別）



(注) 老年人口比率は2010年、バブルの大きさは人口規模を表す

(資料) 総務省統計局「国勢調査」



## ・安来市の将来人口推計

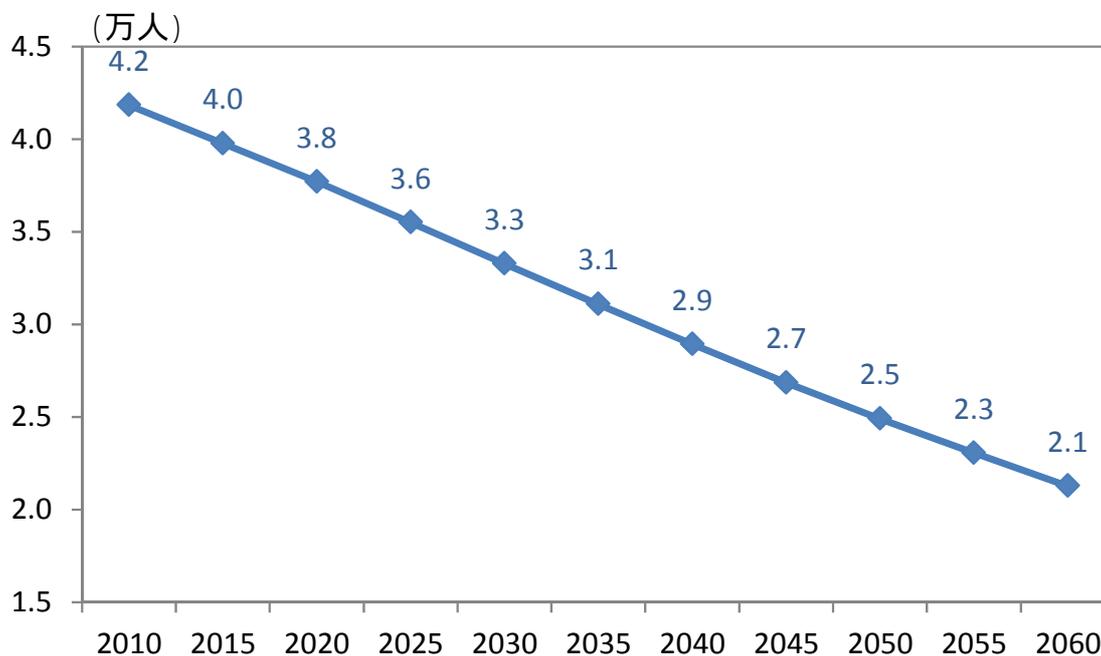
### 1. 将来人口の推移

#### (1) 将来人口

安来市の人口は将来どのように推移するのかを国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計方法（詳細は次ページ）を用いて算出すると、減少傾向が続く見通しとなっています。

この推計では、2040年（平成52年）の人口が2.9万人と2010年（平成22年）対比で1.3万人の減少見通しとなっています。また、推計を2060年（平成72年）まで延伸すると人口は2.1万人となり、2010年対比で半減する見通しとなっています。

図表 -1 安来市の将来人口



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所の推計方法を基に算出



## (2) 推計方法

推計の特徴	推計の仮定	基準年
全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計	<p>出生に関する仮定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原則として2010年の全国の子ども女性比(15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比)と各市町村の子供女性比との比をとり、その比が2015年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定。</li> </ul> <p>死亡に関する仮定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>55～59歳 60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年 2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳 65～69歳以上では、上述に加えて、都道府県と市町村の2000年 2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。</li> </ul> <p>移動に関する仮定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原則として、2005年 2010年の国勢調査(実績)に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を2035～2040年まで一定と仮定。</li> </ul>	2010年

(資料) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局資料を改編

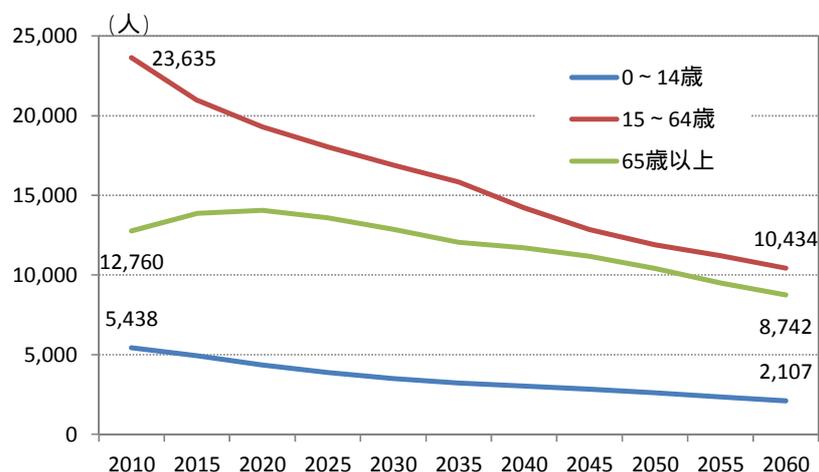


## 2. 将来人口構成

### (1) 年齢3区分別将来人口

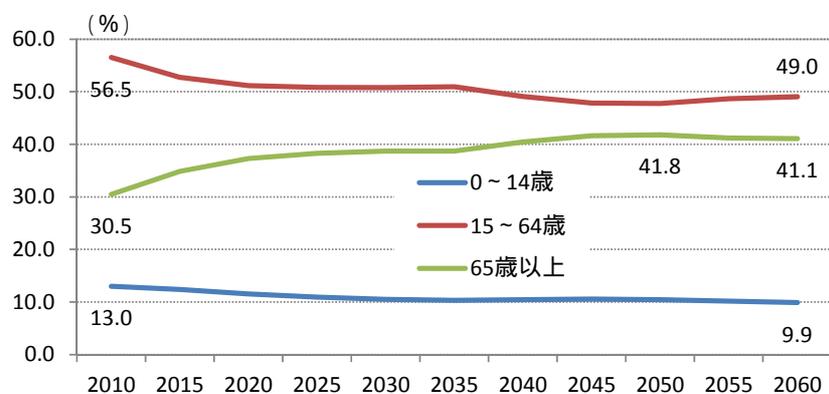
将来人口を年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）および生産年齢人口（15～64歳）は減少が続いています。老年人口（65歳以上）は2020年（平成32年）をピークに減少に転じる見通しとなっています。しかし、生産年齢人口の減少スピードが速いことから総人口に占める老年人口の比率は2050年（平成62年）まで上昇が続く見通しとなっています。

図表 -2 安来市の年齢3区分別将来人口



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所の推計方法を基に算出

図表 -3 安来市の年齢3区分別将来人口構成比



(資料) 国立社会保障・人口問題研究所の推計方法を基に算出

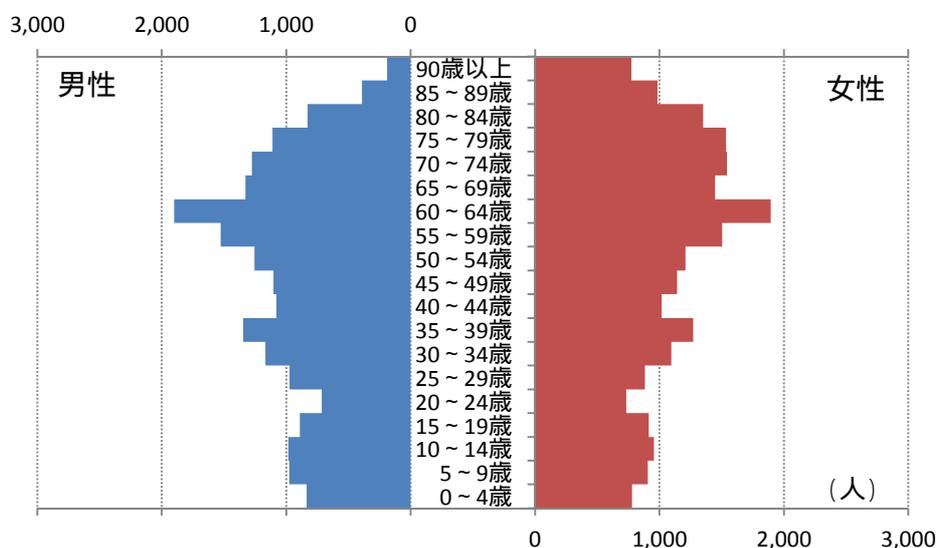


## (2) 将来の人口ピラミッド

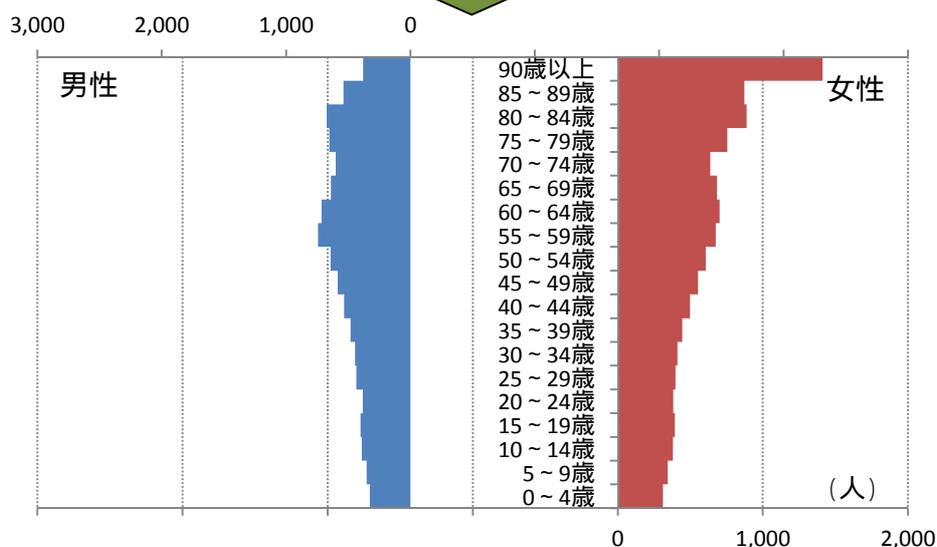
2060年（平成72年）の人口ピラミッドは、2010年（平成22年）と比べ、全体的に細くなる上、相対的に年齢の高い層が厚くなる見通しとなっています。2010年は老年人口1人あたり1.85人の生産年齢人口で支えていたものが、2060年には1.19人で支える構造になります。

図表 -4 安来市の人口ピラミッド

2010年



2060年



(資料) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法を基に算出



## ・安来市の人口の現状と減少要因の整理

### 1. 人口動向と将来人口のまとめ

- ◆ 人口は 1985 年をピーク(直近)に減少傾向、今後も減少傾向は続く見通し
- ◆ 少子高齢化の進展により、老年人口比率は上昇し、足元では 30%を超え、2040 年には 40%台まで上昇する見通し
- ◆ 「自然増減(出生 - 死亡)」は 1980 年代まではプラスで推移していたが、90 年以降はマイナスに転じ、徐々にマイナス幅が拡大
- ◆ 「社会増減(転入 - 転出)」はマイナスが続く
- ◆ 人口減少、高齢化の進展は中山間地域ほど深刻

#### (1) 人口の推移と構造

安来市の人口は、1985 年(昭和 60 年)の 49,616 人をピーク(直近)に減少傾向にあり、2010 年(平成 22 年)には 41,836 人と 1985 年対比で 15%超の減少になっています。今後も減少傾向は続き、社人研の推計方法を基に算出すると 2060 年(平成 72 年)には 2.1 万人と 2010 年対比で半減する見通しとなっています。

また、人口減少と併せ少子高齢化も進展していることから、人口に占める老年人口の比率は上昇が続いており、足元では 30%を超えています。今後も上昇は続き、2040 年以降は 40%台で推移する見通しとなっています。

地域別にみると中山間地域を中心に人口減少、高齢化が進展しております。

#### (2) 人口動態

出生と死亡の状況をみると、出生数が減少する一方で死亡数は増加傾向にあり、その差である「自然増減(出生 - 死亡)」はマイナス幅を拡大させています。また、合計特殊出生率は、全国値を上回っているものの、人口置換水準(人口を長期的に一定に保てる水準の 2.1)を大きく下回っており、出生数の減少を止めることは期待できない状況にあります。

転入と転出は、転出が転入を上回る状況が続いています。特に 10 代後半から 30 代の転出超過が目立っています。10 代後半から 20 代前半は首都圏、関西圏、山陽 3 県へ、30 代では島根県内および鳥取県への流出が多くなっています。



## 2 . 減少要因の整理

### ( 1 ) 人口減少の影響

これまでみてきたように安来市の人口は、減少傾向が続いており、将来も減少が続く見通しとなっています。また、併せて高齢化もこれまで以上に進展するものと考えられます。

人口減少および高齢化の進展は、地域コミュニティの維持・存続が困難になるなどの影響のほか、労働力人口の減少に伴い地域の経済成長にも大きな影響を及ぼします。また、税収が減少することにより、行政サービスの低下や社会インフラの維持が困難になるなど、行財政面への影響も懸念されます。

したがって、人口減少を食い止め、維持・増加させることができれば、これらの懸念は解消されますが、人口構造・動態は短期的に変化させることはできないため、中長期的に人口が減少することは避けられません。しかし、有効な人口対策を講じることにより、人口減少スピードを鈍化させ、影響を緩和することは可能であると考えられます。

### ( 2 ) 減少要因の整理

安来市の人口は、「自然増減（出生－死亡）」「社会増減（転入－転出）」ともにマイナスとなっています。

「自然増減」では出生数が減少しているのに対し、死亡数が増加しており、マイナス幅が拡大傾向にあります。高齢化の進展に伴い死亡数は今後も増加傾向が続くため、出生数を増加させてマイナス幅を縮減していく必要があります。しかし、足元の安来市の出生率は、全国値を上回っているものの、島根県全体と比べると低い水準で推移しています。

一方、「社会増減」のマイナスは、10代後半から30代の転出超過が大きく影響を及ぼしています。この層は、重要な労働力であることに加え、出生面でも核となる年代であることから、人口流出が地域にとって大きな痛手となります。

次章では、上記の出生率が低い水準にあることと、10代後半～30代の転出超過について焦点を絞り、有効な人口対策を講じるために必要となる現状把握を深めるべく、分析を行っていきます。



## ・人口減少要因の分析

### 1. 出生率に関する分析

#### (1) 合計特殊出生率の動向

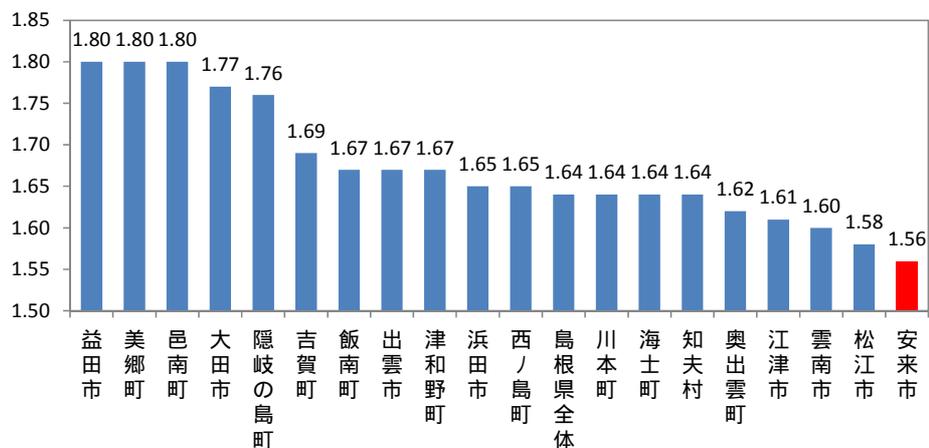
安来市の合計特殊出生率は、全国値を上回っているものの、島根県全体と比べると低い水準で推移しています。また、島根県内の他市町村と比較すると最も低くなっています(2008年～2012年)。

図表 -9 合計特殊出生率の推移(再掲)



(資料) 島根県保健統計と保健所よりデータ提供

図表 -1 島根県内市町村の合計特殊出生率(2008年～2012年)



(資料) 厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

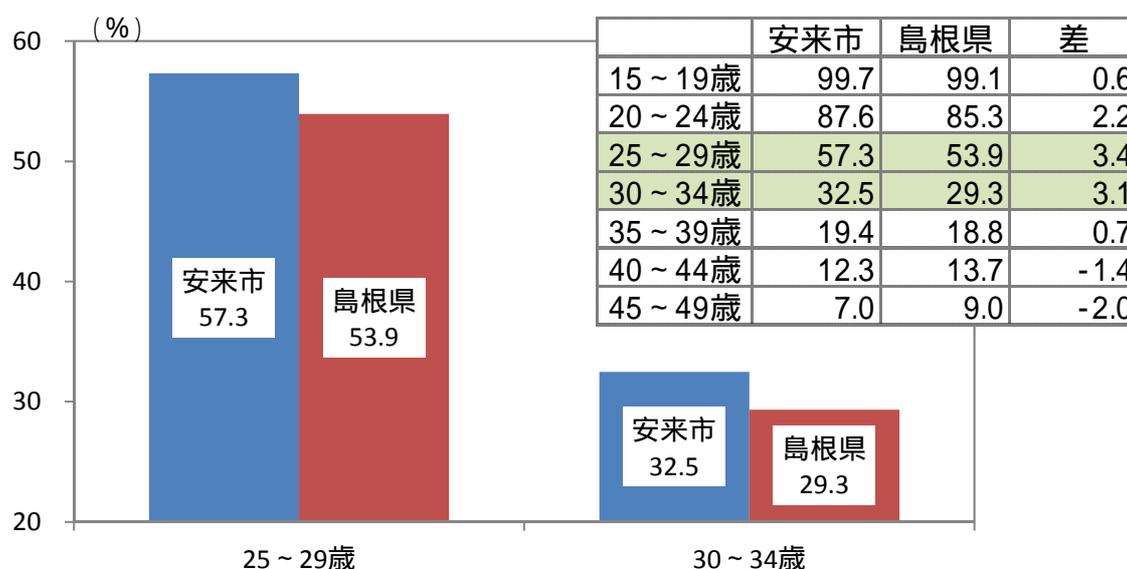


## (2) 出生率が低い要因

合計特殊出生率は、ある期間における各年齢（15～49歳）の女性の出生率を合計したものです。ここで用いられる15～49歳の女性人口は、既婚者だけではなく未婚者も含まれています。日本は諸外国と比べ婚外子の割合が極めて低いことから、一般的に未婚者が増加すると出生率は低下します。

ここで安来市の女性の未婚率をみると20代～30代で島根県全体と比べ、高くなっていることがわかります（図表IV-2）。特に「25～29歳」「30～34歳」の層は、出生数が多い年代であることから、これらの層の未婚率の高さが、安来市の出生率を低く抑えている要因の一つとなっている可能性があります。

図表 -2 女性未婚率の比較（2010年）



（資料）総務省統計局「国勢調査」

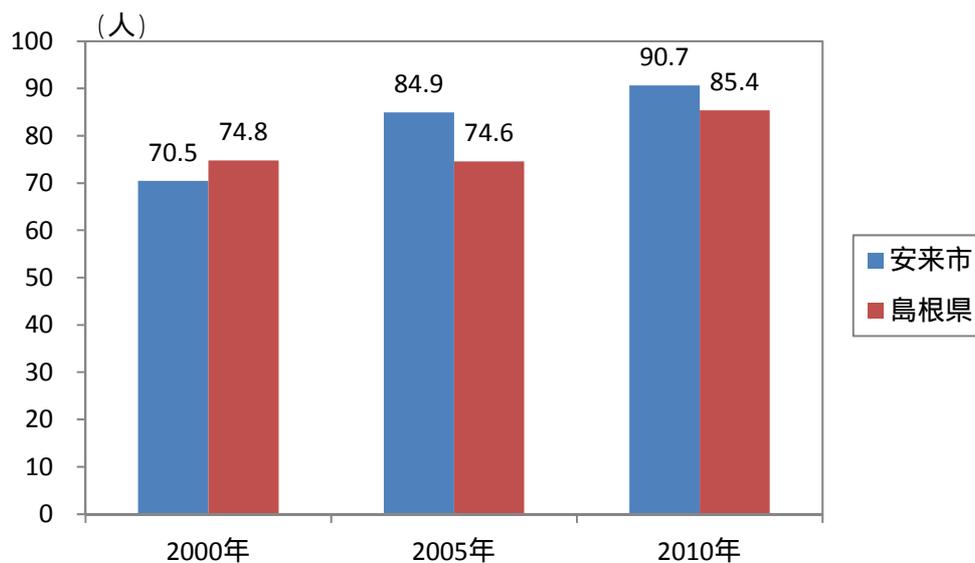
有配偶者女性に限定して出生動向をみると、島根県全体と比較して安来市が上回っている年もあります（次ページ図表IV-3）。出生数は年ごとにバラつきがあるため、一概にはいえませんが、安来市の有配偶者女性の出生動向は、島根県全体から必ずしも見劣りすることはないものと考えられます。したがって、夫婦間で生まれる子どもの数にはあまり差がない可能性があります。

このことから安来市の出生率が低い要因としては、未婚率の高さが影響を及ぼしているものと考えられます。また、これと関連して初婚年齢の上昇による影響も無視できません。一般的に初婚年齢の上昇は出生率を引き下げる方向に働きます。島根県を含め



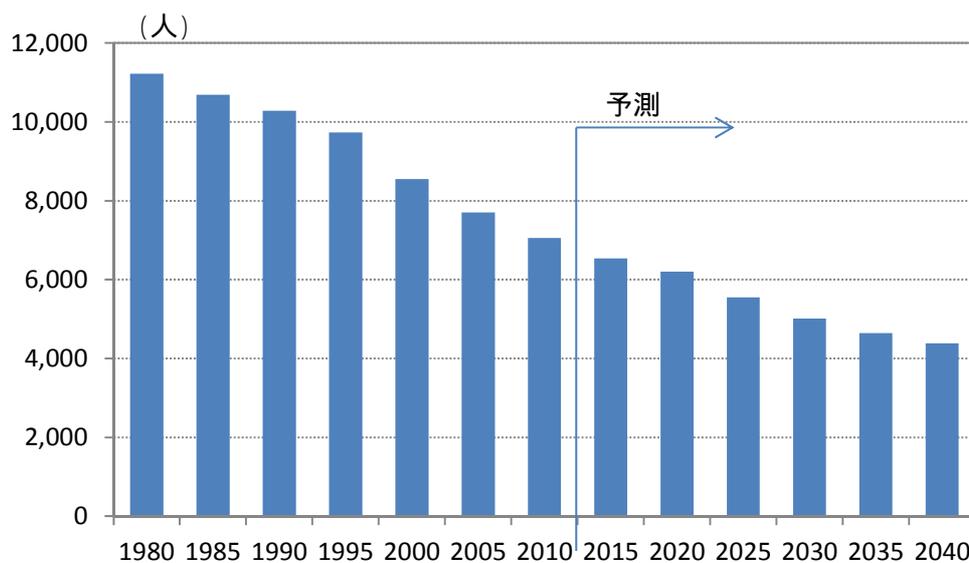
全国的に初婚年齢は上昇する傾向にあり、安来市も同様に推移しているものと考えられます。15～49歳の女性人口は、今後も減少傾向が続く見通しであり、出生率が回復したとしても、出生動向を取り巻く環境は、非常に厳しいといえます。

図表 -3 有配偶者女性（15～49歳）千人あたり出生数



(資料) 総務省統計局「国勢調査」、島根県「人口移動調査」

図表 -4 安来市の女性人口（15～49歳）の推移



(資料) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 2013年3月推計」



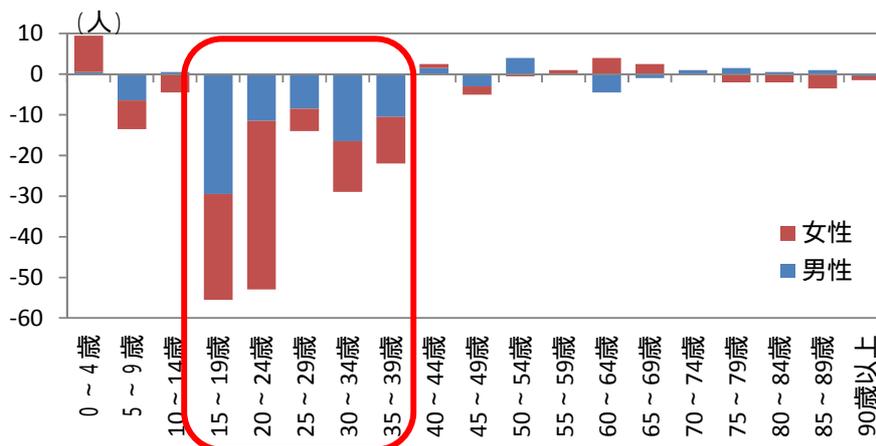
## 2. 10代後半～30代の転出超過に関する分析

### (1) 純移動の動向

安来市の純移動（転入－転出）をみると、10代後半から30代の転出超過が目立っており、純移動のマイナスの大部分を占めています。

そのうち10代後半から20代前半は首都圏、関西圏、山陽3県への流出が多くなっています。また、30代では島根県内および鳥取県への流出が多くなっています。なかでも島根県内へは松江市が、鳥取県へは米子市が大部分を占めています。

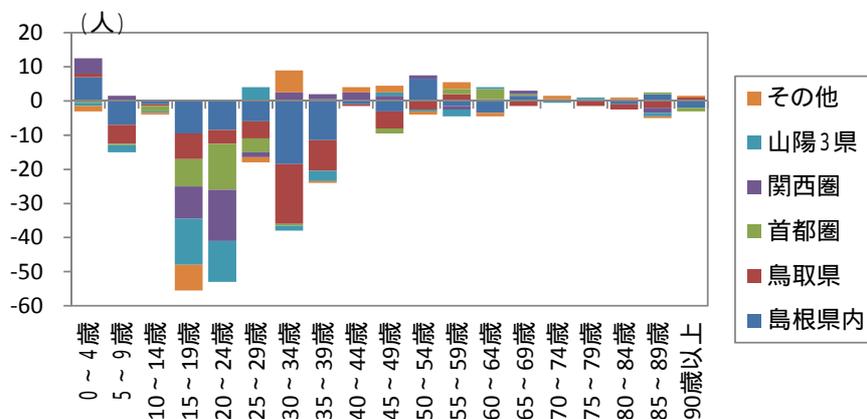
図表 -5 安来市の純移動（性別）



(注) 2012年および2013年の平均値(下図表も同じ)

(資料) 総務省統計局「住民基本台帳移動報告」(下図表も同じ)

図表 -15 安来市の純移動（年齢・地域別）(再掲)





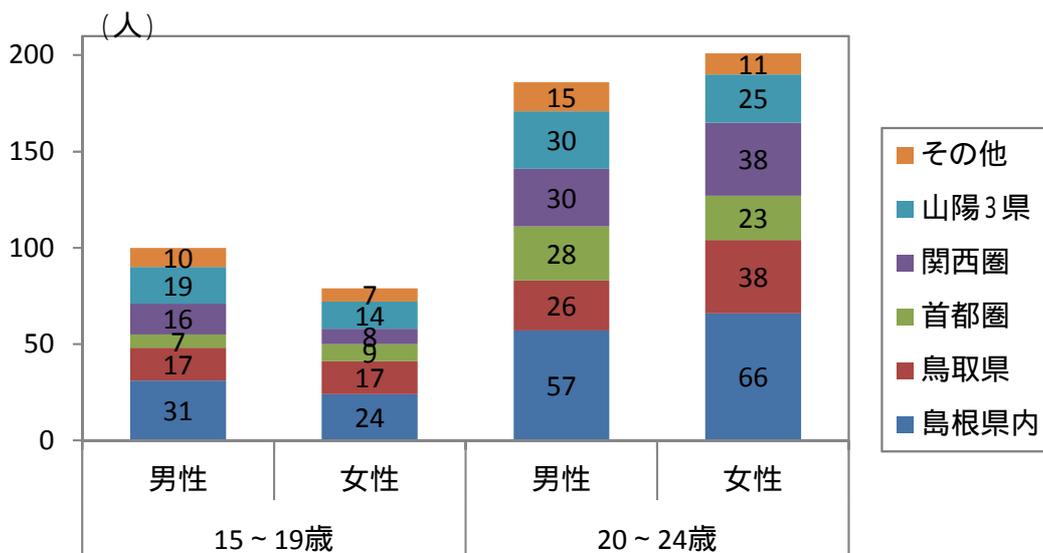
## (2) 10代後半～20代前半の転出

前ページの図表のとおり「15～19歳」「20～24歳」の層は、純移動のマイナスが最も大きくなっています。図表IV-6、IV-7をみると「15～19歳」に比べて「20～24歳」の転出規模が大きくなっていますが、転入規模も大きいため、差し引きした純移動は同規模のマイナスとなっています。これらの層の転出先は男女とも島根県内への転出が最も多く、鳥取県と合わせると転出する人の約半数が山陰両県内への移動となっています。

「15～19歳」の層において、転出者の移動理由で最も多いのが「就学・卒業」(57.0%)で半数を超えており、次に「就職」(29.1%)と続いています(次ページ図表IV-8)。安来市内から通える大学、短大等が限られていることから、高校卒業後に就学するために市外へ流出していることがうかがえます。

図表IV-8のとおり「20～24歳」の層において、転出者の移動理由で最も多いのが「就職」(46.6%)で約半数をしめています。次に「結婚・離婚・縁組・離縁」(18.5%)と続いており、このなかでは結婚が主な理由になっていると考えられます。この層では、大学、短大等卒業後の新卒での就職が主な移動理由になっていることがうかがえます。しかし、前述したとおり安来市内から通える大学、短大等が限られていることから、この卒業のタイミングで市外へ転出しているのは図表の数値より少ない可能性があります。実際には高校卒業後に住民票を移転せずに市外へ転出し、就職等のタイミングで住民票を移転しているケースが相当数あるものと考えられます。

図表 -6 安来市からの転出(2012、2013年の累計)



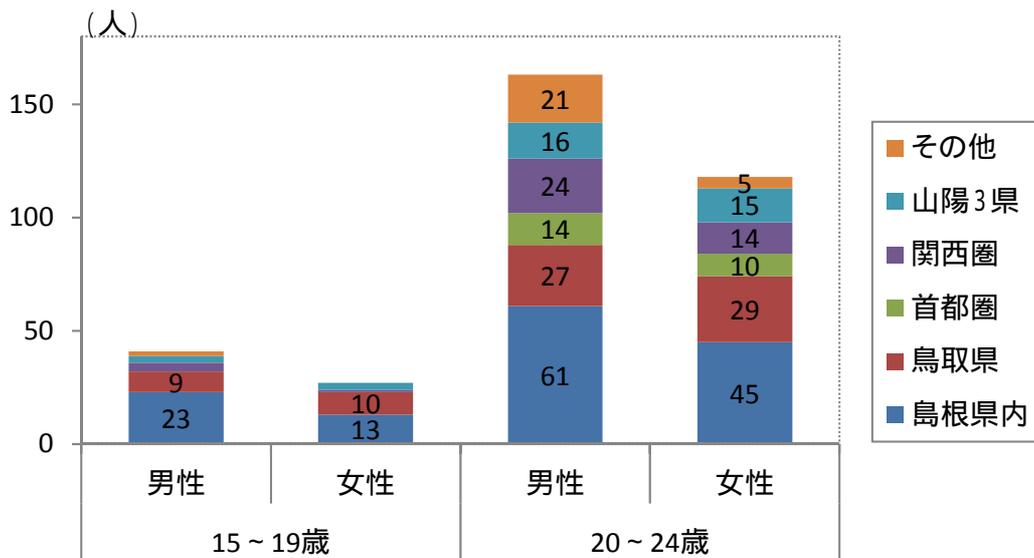
(資料) 総務省統計局「住民基本台帳移動報告」



したがって、実際の純移動（転入－転出）の状況は、「15～19歳」ではマイナス幅が大きく、「20～24歳」ではマイナス幅が小さいものと推測されます。

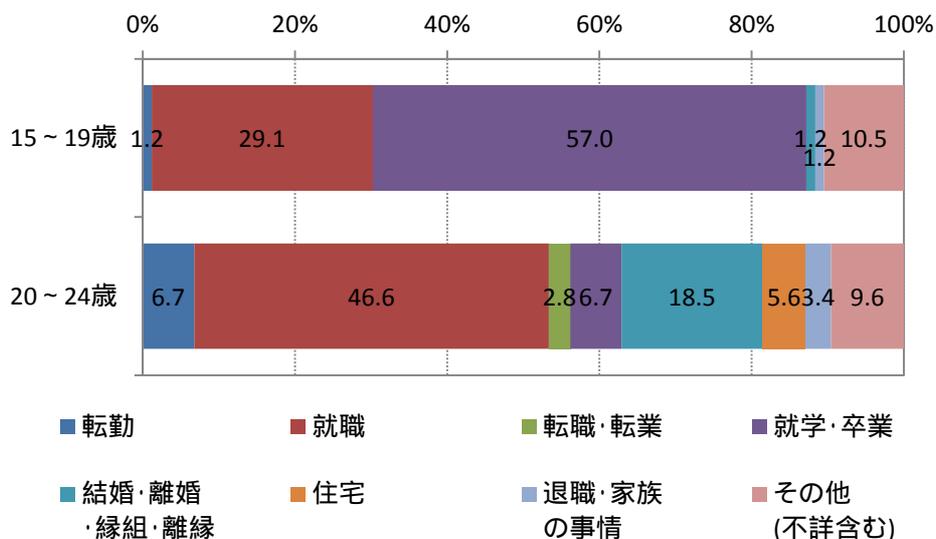
また、「20～24歳」では性別による違いもみられます。男性に比べて女性の転出が多いにもかかわらず、転入が少なくなっており、純移動のマイナスが大きくなっています。女性向けの雇用の場が少ない可能性があります。

図表 -7 安来市への転入（2012、2013年の累計）



（資料）総務省統計局「住民基本台帳移動報告」

図表 -8 転出者の移動理由別構成比（原因者、2013年）



（資料）島根県「人口移動調査」



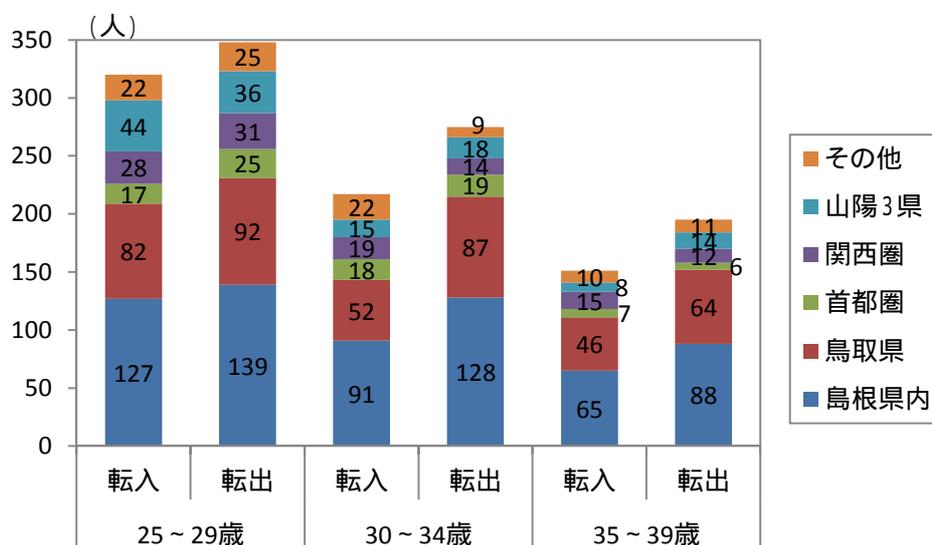
### (3) 20代後半～30代の転出

安来市の20代後半から30代の転出状況をみると、転出数は「25～29歳」が最も多く「30～34歳」「35～39歳」と年齢層が上がるのにしたがって減少しています。しかし、転入と差し引きした純移動でみると「25～29歳」のマイナス幅が最も小さくなっています。これらの層の転出先も島根県内への転出が最も多く、「30～34歳」「35～39歳」では鳥取県と合わせると転出する人の約8割が山陰両県内への移動となっています。

いずれの層においても、転出者の移動理由で最も多いのが「結婚・離婚・縁組・離縁」となっており、3割超を占めています（次ページ図表IV-10）。「転勤」の構成比も高くなっていますが、「転勤」による転入が相応にあるため、全体に与える影響は軽微なものにとどまります。また、年齢層が上がるのにしたがって「住宅」（新築による転居など）による転出が増加しますが、「住宅」による転出は、家族などの同伴者を伴うことが多いと考えられることから、全体に与える影響は見かけ以上に大きくなるものと類推されます。

移動理由が「結婚・離婚・縁組・離縁」「住宅」による純移動は、マイナス圏での推移が続いています（次ページ図表IV-11）。このマイナスの多くは20代、30代で構成されているものと考えられ、人口対策を講じる際の重要なポイントになります。

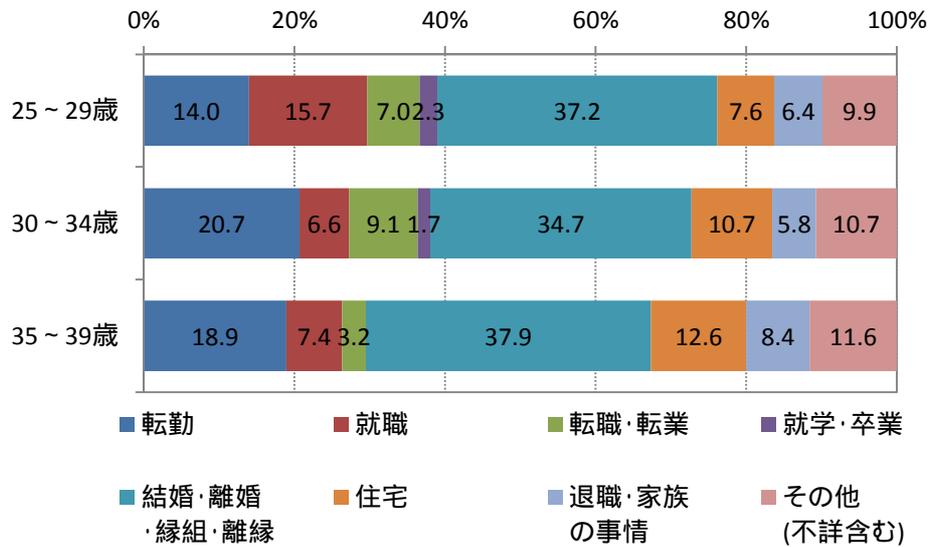
図表 -9 安来市の転入出（2012、2013年の累計）



（資料）総務省統計局「住民基本台帳移動報告」

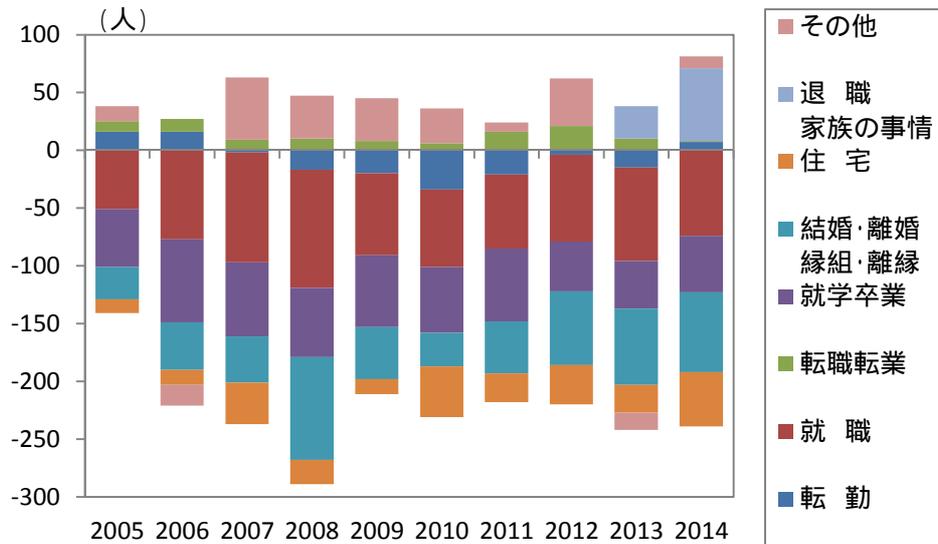


図表 -10 転出者の移動理由別構成比（原因者、2013年）



（資料）島根県「人口移動調査」

図表 -11 移動理由別純移動の推移（原因者）



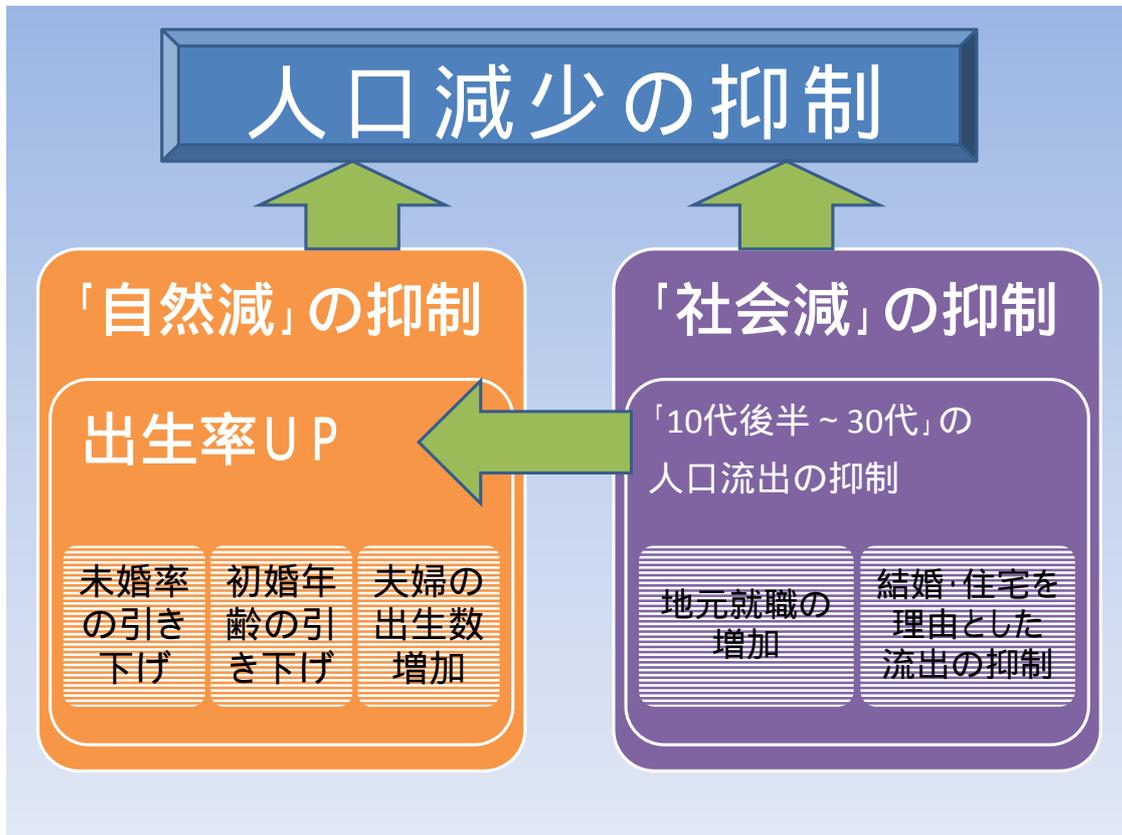
（注）「退職、家族の事情」は2013年調査より

（資料）島根県「人口移動調査」



### 3 . 人口減少抑制に向けて

図表 -12 人口減少抑制に向けたイメージ図



これまでみてきたように安来市の人口は、「自然増減（出生－死亡）」「社会増減（転入－転出）」ともにマイナスとなっており、将来にわたっても減少傾向が続く見通しとなっています。今後、人口減少による地域へのマイナス影響を緩和させるためには、人口減少を抑制していかなければなりません。そのためには「自然増減」「社会増減」のマイナス幅を圧縮していく必要があります。

まず「自然増減」のマイナスに対しては、出生数の減少に歯止めをかけなければなりません。そのためには現在の低い水準にある出生率を引き上げていくことが肝要となります。

前項で確認したとおり、安来市では未婚率が高いことにより出生率の水準が低くなっている可能性があります。結婚しやすい環境を整え、かつ上昇しつつあると想定される初婚年齢を抑えることができれば、出生率を上昇させることは可能であると考えられます。加えて、子育てしやすい環境を整備し、第2子、第3子と夫婦が望む子どもの数を



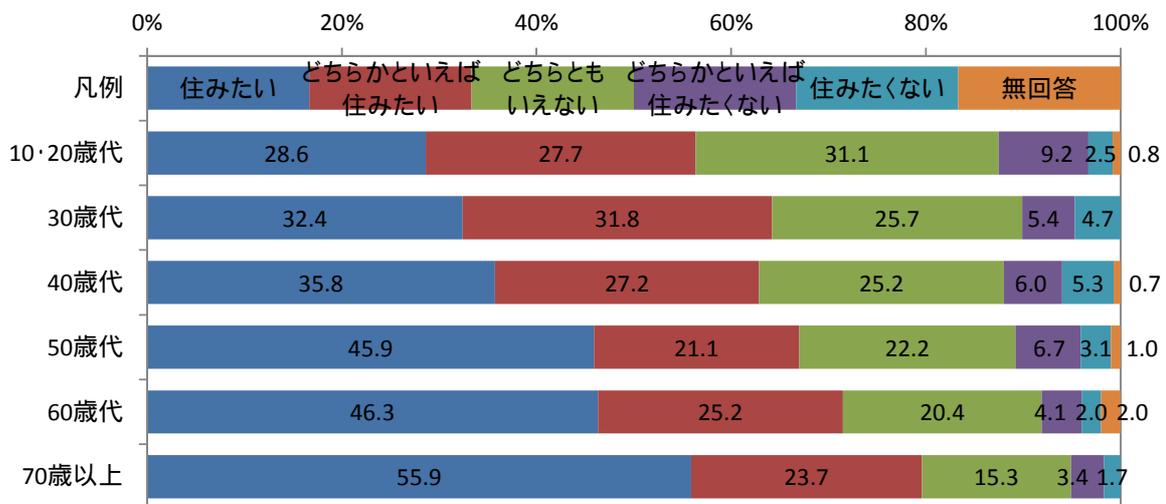
実現することができれば、出生率をさらに上昇させることが期待できます。

しかし、出生率が上昇したとしても、出産する世代の人口が当面減少するため、出生数の回復には数十年単位の時間を要します。それでも将来の人口規模を一定水準に保つためには一刻も早く対策を講じていく必要があります。

次に「社会増減」のマイナスに対しては、10代後半から30代の転出超過を抑えなければなりません。10代後半は高校卒業後の就学が、20代前半は大学、短大等卒業後の就職が主な転出理由となっています。安来市内から通える大学、短大等が限られていることから、高校卒業後に就学するために一定数が市外へ流出することは避けられないものと考えられます。したがって、これらの層は大学、短大等を卒業するタイミングでどれだけ戻ってきてもらえるかが鍵となります。雇用環境を整備するとともに故郷としての魅力を高め、就学のために転出した若者が安来市に戻ってくる流れを作ることが必要となります。

20代後半から30代の転出者の移動理由で最も多いのが「結婚・離婚・縁組・離縁」となっており、また、年齢層が上がるのにしたがって「住宅」（新築による転居など）による転出が増加します。これらの転出は、市内に一定の生活基盤を持っているにもかかわらず、市外へ転出しているケースが多いものと考えられます。「結婚」等は個人個人の事情があるのかもしれませんが、「住宅」による移動は、安来市に住み続けるよりも他市町村により魅力を感じて転出しているといえます。安来市が市民に行ったアンケート調査によると、現在住んでいる地域に「住みたい」または「どちらかといえば住みたい」という回答割合は年齢の高い層に比べ、若い層で少なくなる傾向がみられました。

図表 -13 今後の定住意向（年齢別）



（資料）安来市のアンケート調査（2014年9月実施）



若い世代の生活・住環境に対するニーズを把握し、安来市の魅力をより高めることによって、定住意識を高め転出を抑えていかなければなりません。これらの層は、出生面でも核となる年代であることから、その人口流出を食い止めることにより「自然減」の抑制にも大きく寄与することが期待できます。

また、I章3項でみたように、人口減少、高齢化の進展は地区により差があります。中山間地域に位置する地区を中心に人口問題に対する深刻度は高まっています。地域間の人口バランスを保つ視点は欠かすことなく、人口対策を講じていかなければなりません。

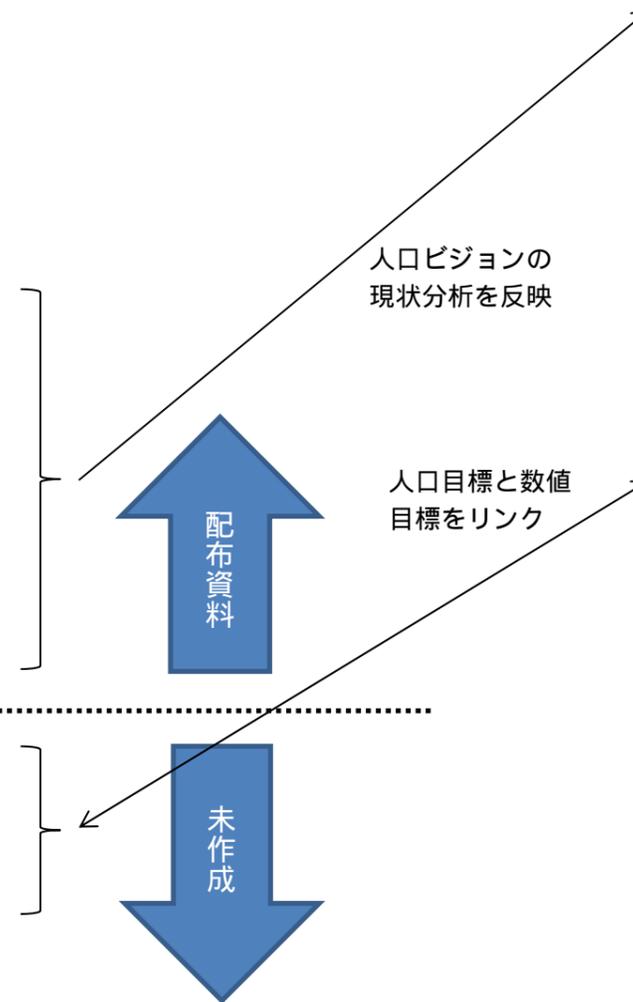
安来市版人口ビジョン および 安来市版まち・ひと・しごと創生総合戦略  
全体構成【案】

安来市人口ビジョン

- ・安来市の人口動向
    1. 人口の推移と構造
    2. 人口動態
    3. 地区別の現状
  - ・安来市の将来人口推計
    1. 将来人口の推移
    2. 将来人口構成
  - ・安来市の人口の現状と減少要因の整理
    1. 人口動向と将来人口のまとめ
    2. 減少要因の整理
  - ・人口減少要因の分析
    1. 出生率に関する分析
    2. 10代後半～30代の転出超過に関する分析
    3. 人口減少抑制に向けて
- 
- ・安来市の将来人口目標
    1. 2060年の将来人口目標
    2. 目標達成に向けて

安来市版まち・ひと・しごと創生総合戦略

- ・基本的な考え方
  1. 安来市の現状と問題点  
人口ビジョンで示した現状や問題点の要約を記載する
  2. 総合戦略の位置づけ  
総合計画や他の計画との関係を示す
  3. 推進・検証体制  
推進・検証体制やPDCAサイクルの構築について記述する
- ・基本目標
  1. 基本目標及び数値目標の設定  
基本目標及び数値目標を提示する
  2. 国の「まち・ひと・しごと総合戦略」の基本目標との関係  
国の総合戦略との関係を示す
- ・具体的な施策
  1. 基本目標1に関する施策
  2. 基本目標2に関する施策
  3. 基本目標3に関する施策
  4. 基本目標4に関する施策
  5. 基本目標5に関する施策



## 市民意見交換会 意見集約

6月に開催しました4地区での市民意見交換会において皆様から頂いたご意見を同種のカテゴリー別に集約しました。

女性に魅力あるまち

カテゴリー	記述内容
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもと安心して暮らせるまちづくり</li> <li>・安心して子育てできる環境（地域の見守り、コミュニケーション）</li> <li>・子育て支援に手厚いまち</li> </ul>
医療・保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育の充実</li> <li>・病院の充実（小児科）</li> <li>・子どもの医療費無料・学費無料</li> </ul>
雇用・職場環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、働く場所があること（仕事を確保してあげる）</li> <li>・女性に魅力ある仕事</li> <li>・子育てしやすい職場（産休・育休がとりやすい環境）</li> </ul>
まちの利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買物が不便、欲しいものが手に入らない</li> <li>・住む所が利便性がよなくて魅力に乏しい</li> <li>・オシャレなカフェ、食事ができる、集まれる場所</li> </ul>
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんたちのコミュニティ（お父さんのコミュニティも）</li> <li>・女性同士で憩える様な場所</li> <li>・地元でグループ活動</li> </ul>
多世代交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間交流が気軽にできる雰囲気、場所</li> <li>・子どもの育ちには三世同居が良い</li> <li>・世代を超えているんな技術を伝承する場</li> </ul>
男性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・品格ある男</li> <li>・魅力ある男性の育成、若い魅力的な男性がいること</li> <li>・男性にもっと引っぱりてもらおう</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回バス（南部町～伯太～安来）買物、病院等便利</li> <li>・公共交通ないから送り迎え</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安来の魅力の発信</li> <li>・女性のお出かけマップ</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひなまつりなど何か特色ある催し</li> <li>・七五三 地区で共同です</li> <li>・音楽関係のイベント施設</li> </ul>
まちの雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃれな町 明るい町 治安のいい町</li> <li>・活気・刺激は他市に求め、住みやすいまちとして魅力を高める</li> <li>・歴史と文化財に親しめるまち</li> <li>・独身女性も暮らしやすいまち</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町村との差別化</li> <li>・歴史を活かす、歴史と文化財に親しめるまち</li> <li>・女性はもっと着物を着て欲しい（無料着付イベント）</li> <li>・大学キャンパスの誘致</li> </ul>

## 子育てしやすいまち(出生率アップ)

カテゴリー	記述内容
結婚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず結婚。結婚に対する意識改革</li> <li>・お見合い 行政が後押し、メディアを活用</li> <li>・出会いの場の提供</li> </ul>
出産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療費補助の充実</li> <li>・結婚年齢を下げる 20代前半で産むと補助金</li> <li>・子どもが生まれたら祝い金を出す</li> <li>・お金 (1人目は100万、2人目は200万、3人目は300万)</li> </ul>
医療・保育・教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療費や保育料を無料に</li> <li>・病院の充実、小児科が少ない</li> <li>・保育の充実、学童保育の充実</li> <li>・急な病児保育をおねがいしたい</li> <li>・子育てシステムが選べるといい(学童、幼稚、保育)</li> <li>・教育環境 ブランド化、学力アップ</li> </ul>
労働環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根本的に安定した収入</li> <li>・チーム安来(企業間連携)</li> <li>・子育てしながら働きやすい場所、育児休暇とか職場の体制の充実</li> <li>・企業に「子育て枠」</li> </ul>
住まい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅を建てやすい環境整備</li> <li>・汐彩団地 子育て世代に格安で販売</li> <li>・社宅を作れる町を作れば若い人がふえるのでは</li> <li>・市営住宅を増やす</li> </ul>
公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな公園が欲しい</li> <li>・子どもが遊べる場所(子どもたちだけで遊べるような)</li> <li>・遊具のある公園を増やしてほしい</li> </ul>
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のネットワーク(公民館の中に世代を超えた集まりの場)</li> <li>・近所のおじいさんたちと遊べる環境、地区で協力してみんなで子育て</li> <li>・子育ての情報を共有できるような場を増やしてほしい</li> </ul>
男性、地域の支え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の意識改革ができていないことが要因(家事に協力)</li> <li>・近所の手助けが必要、まわりのフォローがないと3人目とかムリ</li> <li>・地域の方が託児所代わりに</li> </ul>
お母さん達の交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ママ友 子育ての情報を共有できる場を増やしてほしい</li> <li>・公民館の中にお茶カフェ(世代をこえた)集まりの場</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金の優遇(2人、3人をよくしてね)</li> </ul>

## 住みたいまちなか

カテゴリー	記述内容
住居	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江・米子の通勤圏内、ベッドタウン</li> <li>・キレイな市営住宅</li> <li>・居住に特化させる 住みやすい場所づくり</li> <li>・高齢者マンション（近くにコンビニ・病院）</li> <li>・土地をもっと安くしてほしい</li> <li>・土地区画問題の解消</li> </ul>
空き家・空き店舗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き店舗の活用</li> <li>・古民家経営 空き家の活用</li> <li>・チャレンジショップ（街中）</li> <li>・空き家を活かした下宿の確保</li> </ul>
公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（年間利用できる）公園が欲しい 遊具</li> <li>・公園、子供が遊べる場所（管理の行き届いた大型の公園）</li> <li>・いろいろな体験ができる場所</li> </ul>
商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でしか使えない商品券</li> <li>・小規模でいいからお店がほしい</li> <li>・店、JA、スーパー、飲食店、特色あるお店、集える場所</li> <li>・飲み屋が欲しい</li> <li>・買物ができる場所</li> <li>・街中に駐車場をつくる</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外に対するアピールが必要</li> <li>・街のPRが必要</li> </ul>
子育て環境・医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育施設の充実</li> <li>・近くに子育てカフェ</li> <li>・医療施設</li> <li>・病院・買物・学校近くに</li> </ul>
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流センターの活用の方法 気軽に 寄りやすい雰囲気</li> <li>・人が集まれる親子が集う場所</li> <li>・まちなかのコミュニティがあったほうがいい</li> </ul>
まちの雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯が欲しい（暗いから）</li> <li>・街並みをキレイに（特に女性はイメージを大切にする）</li> <li>・植え込みとか駅前通りとかもう少し華やかだったらいい</li> <li>・まち歩きが出来る環境</li> <li>・着物で歩ける街（着物レンタル）</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（自由な）様々なイベントの開催</li> <li>・婚活（活気をつくるイベント）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに地元の良さを伝える</li> <li>・地元の生活や歴史を住民が楽しむ</li> <li>・新しい人を受入れる体制</li> <li>・孫ターン</li> </ul>

## 中山間地域元氣いきいき

カテゴリー	記述内容
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田舎の中で子供が育つ環境 田舎ならではないか</li> <li>・子供に体験させるイベントづくり</li> <li>・手当・祝い金・学童保育など安心して子育てでき・・・</li> <li>・山の中の保育所 自然の学校 自然とふれあう 土とのふれあい</li> </ul>
産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林業を主体にして生活が成り立たないといけない</li> <li>・中山間地域での産業 材木・炭焼き</li> <li>・集落営農 働き手が集まる 機械の共同 全員で農業</li> <li>・農業の法人化、株式会社化</li> </ul>
雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く場所が必要</li> <li>・農業がしたい若い人がいる</li> <li>・林業 機械があれば女性でもできる</li> </ul>
買い物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物対策必要</li> <li>・生協も良いけど・・・ 移動販売車などがあるとよい 見て楽しむ</li> <li>・移動式コンビニ</li> </ul>
担い手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人を地域の担い手に育てないといけない</li> <li>・地域外から人が来ると新しい発想が出てくる</li> <li>・都市からの若者を入れる、外国人の取り込みをする</li> </ul>
土地・空き家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協同組合を作って空き家や土地を提供する</li> <li>・空き家の無料貸し出し 田舎で暮らしたいIターン者</li> <li>・土地利用の転用しやすく</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地域への交通の利便性向上</li> <li>・生活バス便</li> <li>・タクシー（公営タクシー）</li> </ul>
交流・観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田舎体験の場づくり</li> <li>・農業体験の出来る民宿</li> <li>・独松山、山道を整備して観光客を呼び込む</li> <li>・赤江おまつりない 田舎のおまつり交流</li> </ul>
世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りと子供と一緒に過ごせるようなところがあるとよい</li> <li>・お年寄りと若い人がふれあえる場所</li> </ul>
食の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食を通じて町おこし</li> <li>・安来市の水 安心して飲める</li> <li>・食べ物がおいしいのが一番 客観的な評価</li> <li>・シェフの育成 中山間地域でレストラン</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中山間地の魅力を伝える</li> <li>・今ある地域が、なぜそこにあるのか 歴史を再認識して地域の可能性を創造し全世界にアピール</li> <li>・自然豊かな町に住みたい方もいる どんないい所か外にアピールする</li> </ul>
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流センターを拠点に地域の交流と安否確認も</li> <li>・学校との連携、学校が核</li> </ul>